新連載！

週刊ポスト　2017年8月7日発売号

名曲カルテ

昭和歌謡といつまでも

堀井六郎
絵・松本 浦

第1回 あなたにとって忘れられない青春の一曲

この連載を始めるにあたり、編集部のほうで独自に「あなたにとって忘れられない青春の一曲」の読者アンケートを実施しました。

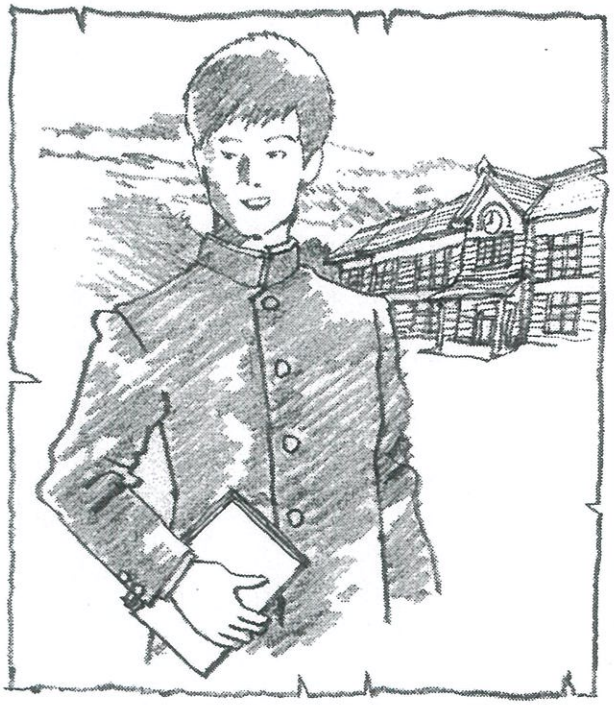
その結果、949人の読者から回答をいただき、なんと462曲ものメモリーソングが挙げられていました。驚いたのは1票だけの投票が325曲もあったことで、その多様さを知り、追憶に影響する「昭和歌謡の歌ぢから」をあらためて認識することになりました。

『青春の坂道』(岡田奈々)、『池上線』(西島三重子)、『あなたのすべてを』(徳永芽里など多数)等々、こうした大ヒット未満の曲にしても、それぞれの人が青春を振り返ったとき、甘酸っぱさと共に、胸の内から自然と響いてくるような大切な歌なのです。いったいどんな青春時代を送られたのだろうと考えるだけで胸が熱くなりました。アンケートにお答えいただいた方には深く感謝します。

そんななかで堂々の1位に輝いたのは、77票(全体の8%)を獲得した舟木一夫の『高校三年生』でした。第2位の『なごり雪』が34票なので、占有率は倍以上のぶっちぎりです。

昭和38年にリリースされた『高校三年生』を作曲したのは遠藤実ですが、当時愛弟子だった舟木をデビューさせるにあたって、ディレクターから候補の歌詞が10編ほどわたされたそうです。その中からセレクトされたのが「高校三年生」と題名が付けられた、この曲でした。

作詞した丘灯至夫は、共学の経験はもちろん、病弱のため旧制の商業学校(もちろん男子のみ)も満足に通えなかったこともあり、作詞者本人のあこがれがこの作品全体に色濃く投影されています。



「僕らフォークダンスの手をとれば甘く匂うよ　黒髪が」と歌われる2番の歌詞が実に印象的ですが、丘によれば、この歌詞が最初に思い浮かび、あとは言葉をつないで作り上げたとのこと。

レコード発売の前年、世田谷にある私立高校の校庭でフォークダンスに興じる男女の高校生を見て、自らの青春とのあまりの違いに驚愕、青春を謳歌する姿をフォークダンスという言葉に託したのでしょう。「黒髪が甘く匂う」と連想してしまうのは、成熟した大人の感性かもしれませんが、この「男女間の距離の近さ」こそが、新しい時代の象徴なのだ、と訴えたかったのかもしれません。このとき丘はすでに40代半ばでした。

この連載では、こうした昭和歌謡をより味わい深く、より楽しむためのお話を少しずつご紹介していけたら、と思っています。

ほりい・ろくろう　昭和27年東京都生まれ。慶應義塾大学文学部卒業後は25年にわたる出版社勤務を経て独立。現在は出版社経営の他、ライターとしても活躍。著書に『私的「昭和大衆歌謡考」』第1～3集(グスコー出版)がある

JASRAC出 1708967-701